

深浦会東京だより

第20号

深浦会東京 事務局
〒154-0011 東京都世田谷区上馬4-23-7
トボス・M. 駒沢102
TEL 03-3418-0914
FAX 03-3422-0483

東京の深浦まつり

● 交流の翼を更に広げて



会長 黒滝 進

白神山地はいま、一斉に若葉が開き「春もみじ(紅葉)」の季節を迎えているように、
会員の皆様にはお変わりなくお過ごしでしょうか。
当会の総会・交流会は、昨5月31日、品川区の「きゅりあん」で開催され、来賓・深浦からの出席者を含め、三百名を超える参加者が集いました。再会を喜び交流の輪が会場を埋め、深浦漁協女性部の腕を振った「深浦の味」に、改めて感激し、にぎやかな祭りとなりました。
アトラクションには、深浦出身の若きアーティスト「近藤兄弟」に出演を頂き、老いも若きもその息吹を楽しみ拍手を送り続けました。
一方、夏休み計画の「ちびっこ交流会」は、参加者が少なく中止の巴むなきに至りました。毎年、町側の行き届いた計画に、参加の子供達は、一生の思い出を深く刻ん

だ行事だけに、中止は誠に残念でした。
今年も趣向を凝らし、秋に親子の交流会として可能性を探ってみます。奥深い深浦の探訪ができますので、親子での参加をお勧め致します。

「お相撲さんを励ます会」は、久慈会長のご報告に譲りますが、15年度の「励ます会」には、出身四力士の揃い踏みが実現し、豪華そのものでした。その席に県人会の役員が奥様同伴で出席され、その奥様は九州のご出身で安美錦の熱心なファンの様でした。それが会場では海鵬にも直かに触れ、すっかり気に入ってファンになったそうです。後日ご夫妻は、深浦、十二湖を観光の折、両力士の生家をも訪ねたと聞きませした。小さな町で、四力士の輩出などというのは稀有なこと、よそから見れば垂涎的なのですから、多くの方が励ます会に入り、声援を送って頂きたいと思っております。

ところで、故郷・深浦は、平成の大合併の流れの中で、鰯ヶ沢・深浦・岩崎の西海岸三町村の合

併が実現するかに思われてきました。ところが二ヶ月の「広報・ふかうら」では、その計画が頓挫し協議会は解散と報じておりました。

深浦の皆さんは、更に厳しくなる時代を迎えるに当たり、町民のくらし、福祉、教育等の基本的なレベル維持のため、新しい町村の枠組みを模索し

ていました。そんな中で歴史と伝統と文化の輝きを失わせない自治体の創成を目指すとの方向性が打ち出され、敬意を表していたものでした。

この先は、知事による合併勧告等を含め、新たな可能性が模索されることになるでしょう。

いずれにしましても故郷・深浦は、他町村が合併協議から離脱するという状況の中で、難題に直面していることは事実です。この上は、故郷・深浦の産業・経済の振興、観光の伸長、特産品の販売等、深浦が立ち行くための基礎力強化に向け、私たちは深浦との交流の

翼を更に広げて行うではありませんか。

この総会・交流会には、平沢町長以下多数の町会議員の方もご出席の模様です。合併に関する報告をお聞きすると共に、我が故郷に熱いエールを送ろうではありませんか。

さて、最後になりましたが、当会の年会費を来年度から、現在の千円を二千円に引き上げる案を総会に提出させて頂いたことについて、お詫言わせて頂きたいと思っております。

現在、会の財政は決算書に見られますように、年会費納入者約三百五十名分と、総会交流会等行事毎の特別会費及び深浦からの総会・交流会特別会費的な意味をもつ支援をもつて賄ってまいりました。当会財政支出の中で最大なのは、年一回の会報発行費です。一回の発行に約30万円ほど掛りますが、会報は会員をつなぐ

ぐ絆として、欠かすことのできない重要な活動と捉え取り組んでまいります。その結果、財政は従来より逼迫を来して、そのため役員活動も、旅費は自前、原則手弁当で行動してまいりました。そして、なご足らざるころは寄附等で補填する形で運営されてきたのです。しかし、この状態を長く続けることは好ましくないと考え、敢えてここに値上げをお願いすることにいたしました。

来年度から、十七年度からの値上げになります。どうか事情が賢察の上、ご協力頂きたくお願い申し上げます。

さて、今年の総会、交流会は、久しぶりの日曜日開催です。一年振りの再会・交流で、にぎやかな深浦まつりを楽しみたいものです。お誘い合せてご参加下さい。

「門前広場」をはじめとして「館」の整備を進め、衰退傾向にある商店街の活性化の起爆剤となるよう観光客の受け入れ態勢づくりを図り一五〇万人観光を目指します。

ここにちまたで展開してきた一連の観光事業の連携をいっそう促進し、一次産業牽引の一助となるよう足腰の強い町づくりを推進します。

また、山崎先生がお亡くなりになられたから不在でありました関係診療所の医師につきましては、昨年11月より大阪市和泉市立病院の外科部長を歴任された、救急医療の第一人者である柳善佑先生が赴任されました。これを機に今後更に保健、医

療の充実を図ってまいります。

教育の面においては、深浦高校の入学者が年々減少し存続が心配されています。

町では深浦会東京設立10周年の折、会員皆様方より修学支援資金としてご恵与いただいた寄付金を活用し、今年度深浦高校入学支援金の制度をつくることで一人10万円の支援金として活用させて頂いていただきました。改めて心より感謝申し上げます。

最後に、深浦会東京の今後益々の隆盛と、会員ご家族の皆様のご健康とご活躍を御祈念いたすと同時に、5月の総会での再会を約束いたします。あいさついたします。

活力と魅力ある郷土を目指して



深浦町長 平沢 敬義

行合崎にも心地よい風が感じられる今日このごろ、「深浦会東京」会員の皆様におかれましては、各分野において益々活躍のこととお慶び申し上げます。

今尚、混沌とするイラク情勢のなか、昨年度は日本人外交官2人が殺害されるという痛ましい事

故が起きました。この場をお借りして哀悼の意を表します。

さて、昨年8月17日の深浦町町長選挙におきまして、町民各位並びに関係各位のご支持、ご支援により町長四期目を引き続き担当する栄に浴し、ここに深く感謝とお礼を申し上げます。

今後は重要事項の遂行と「豊かで住みよい活力あるあずまじ町づくり」を主眼として邁進してまいります。

深浦町町の重要懸案

事項であります市町村合併問題でございますが、平成14年11月鰯ヶ沢町、深浦町、岩崎村の3町村の合併推進協議会を設置し検討を重ねてまいりました。3町村合併の財政シミュレーションが悪く、明るい展望が描けない等の理由により、岩崎村が協議会を離脱したこと、今年1月13日解散となりました。

これによって、合併は白紙の状態に戻った訳です。しかしながら、少子高齢化、地方分権、厳し

い財政事情を考えると合

併は避けて通れない大きな課題であります。

このような中、深浦町としてもいろいろ検討を重ねた結果、岩崎村との二町村の合併が残された最良の選択肢と捉え、今後、地域の皆様の声を集約しながら協議と相談し、合併に向け調整していくこととしています。

平成16年5月吉日

会員各位 お知らせ

「深浦会東京」第12回定期総会・交流会の開催について

深浦会東京 会長 黒滝 進

拝啓
新緑の候、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
日頃、当会の運営につきましてご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、第12回定期総会・交流会を下記のとおり開催いたします。深浦町からも町長をはじめと多数の方々に参加されますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいませようご案内申し上げます。 敬具

記

- 日時 平成16年5月30日(日)午後1時より
- 場所 きゅりあん(品川区総合区民会館) 東京都品川区東大井5-18-1 ☎ 03(5479)4100
- 交通 J R京浜東北線大井町駅下車南口徒歩1分、東急大井町駅下車徒歩5分
- 会費 1人5,000円(年会費1,000円を含む) 同伴家族1名増すごとに3,000円加算。但し高校生以下は無料。
- 申込方法 同封の「はがき」に必要事項を記入し、5月20日までに返送下さい。

※当日、ご出席できない方は年会費(1,000円)を別紙郵便振替払込書にてお振り込み下さい(平成15年度振込実績230名余)。なお、振込手数料は、当会にて負担いたします。
※「広報ふかうら」の継続購読、並びに新規購読をご希望される方は、別紙郵便振替払込書にて購読料(2,000円/年)をお振込み下さい。振込手数料は当会にて負担いたします。
※会場でのスナップ写真の撮影は致しませんので、写真を撮られる方は、インスタントカメラ等をご持参下さい。 以上

平成16年度親子ふるさとツアー

- 期日 10月9日(土)～10月11日(月)(2泊3日)
- 募集人員 14名(親子とも) ※引率者1～2名(予定)
- 対象者 小学校5年生～中学校3年生
- 予定行事
 - ・魚釣り大会
 - ・海ほたる 観察
 - ・十二湖大崩山 ハイキング(5時間程度)
 - ・ふかうら文学館
 - ・立ちねぶたの館 見学
- 宿泊場所 ウェスパ椿山
- 交通機関 航空機
- 参加費用 小・中学生25,000円、大人30,000円 ※ 交通費、宿泊代、食事代、旅行保険料込
- 申込方法 6月30日までに事務局へご連絡下さい。 ※尚、先着順にて定員になり次第、締め切ります。
- 申込先 〒154-0011 東京都世田谷区上馬4-23-7 トボス駒沢102 深浦会東京事務局 TEL 03(3418)0914/FAX 03(3422)0483 常時、深浦会役員及び町担当者が付添いお世話いたします。 詳しい予定等は、後日、参加者にご連絡いたします。
- その他



初めて『深浦会』に参加して

タイムスリッパランデブー 歌手 近藤金吾

母さん。
 元気にしていますか。
 この間「深浦会」なるものにお出で来ましたよ。
 東京で暮らす深浦出身の人たちが集う会です。
 泰二と、あと僕たちがお世話になっている音楽プロダクションの方々も一緒でした。
 僕たちの歌を気に入ってくれた方が、ぜひ深浦会で歌ってと誘ってくれたのでギター片手に出かけて来ました。

知ってる顔がたくさん見えました。
 みんないい顔をしていて、そしてとても暖かかったです。
 思えば、五所川原の農林高校を卒業して早20年、「ふるさととは遠くにありて思うもの」とよく言いますが、お盆にも帰らずにいた僕は、親不孝もの、ふるさと不幸ものと呼ばれても仕方がありません。
 大袈裟に聞こえるかも知れないけど、会う人会う人がニコニコしながらこの手に差し出す名刺の一枚一枚が、まるでふるさとを大事にしてくれなかった僕に、ようやく神様からいただいた免罪符のように思えてきて、胸がつかまる思いでした。

久しぶりに会った同級生達、これからさらなる活躍が期待されるお相撲さん達、東京にいて「深浦会」を支えてる方々と一緒にとっても楽しい時間を過ごしました。

最後に、会場全体で、ウサギ追いし〜♪と「ふるさと」を熱唱したのは感激でした。
 歌っていると、本当に頭の中に深浦の海、山、川、夕日、そして多くの懐かしい顔が浮かんで来たんです。
 それまであの歌をちゃんと歌ったことなんてなかった。
 どんなに東京人みたいな顔で暮らしてても、やっぱり心の奥には「深浦」というあたたかな川が流れてたんです。
 きっとみんなの中にも。
 故郷のチカラは偉大だとあらためて知りました。
 お盆には帰ります。

P・S 一緒に行った東京の人たちが、久六島のサザエのつぼ焼きを見て「こんなでっかいサザエ見たことない！」って言って驚いてましたよ。



黒滝会長の挨拶

今年も待ちに待った「深浦会東京」の定期総会と交流会が、もうすぐ始まりです。関東在住の深浦町出身者で構成する会員と、ふるさと深浦から町長を始め、町・議会や農協、漁協、商工会等の関係者の方々、毎年出席、また他県からの参加

昨年の総会 交流会風景



幼なじみでハイ！ チーズ



みんなで「ふるさと」を合唱

もあり、年々盛会になっております。昨年も町の関係者の方々を含め、約三百名が東京品川区立総合市民会館「きゅりあん」に集い定期総会と交流会を盛大に開催しました。

『深浦のお相撲さんを励ます会』からのお知らせ

『深浦のお相撲さんを励ます会』会長 久慈諭吉



昨年9月28日第二回年次総会・激励会を浅草ビューホテルで開催しました。この日は海鵬関、安美錦に安壮富士関さん、一月場所初土俵デビューから負け越しなしの将司さんと四人のお相撲さんが勢ぞろい。
 この豪華な顔ぶれに、総会に出席した34名の皆さんは大喜びでした。
 海鵬関、安美錦関の「サイン入り手形」の色紙をお二人から一人一人に手渡す大サービス。参加者は二人の関取と握手して色紙を受け取り、写真を撮り合いながら大はしゃぎ。盛り上がったところでカラオケ大会へと移り、お相撲さん四人の美声を中心に皆さんのうた自慢、のど自慢。
 各テーブルではお相撲さんとじっくりとお話し合いも出来ました。
 最後に全員で記念撮影をして、無事終了致しました事をご報告します。
 この三月場所、海鵬関は幕尻ながら9勝6敗の好成績を上げました。安美錦関と安壮富士さんは残念ながら負け越し。将司さんは6勝1放と8場所連続での好成績で、来場所は幕下上位に上がり十両を狙います。
 5月30日の「深浦会東京」の第12回定期総会・交流会には四人のお相撲さんが全員好成績を収めて出席してくれるよう、来場所の活躍を皆で応援したいと思います。
 昨年の『会』の活動としては他に年六場所の番付表の配布、大相撲カレンダーの配布を行いました。
 現在会員数は48名です。会員相互の親睦をはかり、ますます楽しい会にしていきたいと思えます。
 皆さん『深浦のお相撲さんを励ます会』に入会して一緒に応援しませんか。
 5月30日「深浦会東京」の定期総会・交流会で入会受付を致します。また下記では随時受け付けておりますので、是非ご入会して下さい。
 〒271-0092 松戸市松戸579-1-502
 『深浦のお相撲さんを励ます会』会長 久慈諭吉
 TEL 047-367-7993

記

- 1. 入会金 なし
- 2. 年会費 5,000円(総会・激励会費用は別)
- 3. 活動 番付表の配布(年6回)
大相撲カレンダーの配布
総会の開催(年1回参加費は10,000万円前後)
海鵬関、安美錦関の手形色紙の配布
(十両以上の関取にならないと色紙を作れない)

深浦会東京を担当して

深浦町水産観光課主事 山本昭彦

平成16年度の人事異動で、7年間籍を置いた企画課から水産観光課に異動になりました。企画課では深浦会東京を担当させていただきましたが、黒滝会長はじめ役員や会員の皆様には大変お世話になりました。
 私自身も、高校卒業後に東京へ就職し、平成3年に深浦にUターンした経験から、首都圏に住む方々とふるさととのつながりの大切さを痛感しておりましたので、深浦会東京の担当として微力ながらお手伝いできたことをうれしく思っています。
 深浦町は、以前から観光の町として観光客の受け入れに力を傾注してまいりましたが、最近では、国としても外国からの旅行者受け入れに力を入れてきています。このことから分かるように、観光が産業として見直されてきており、観光で地域振興を図るという傾向は全国的となっています。
 このような中、首都圏に在住されている会員の皆様との交流は、そのときそのときの都市住民のニーズを知ることができる大変貴重なものでありますので、担当を離れたことではありますが、今後は観光に携わるものとして皆様のご指導ご助言を賜りたくお願い申し上げます。7年間お世話になりました御礼とさせていただきます。ありがとうございました。

◆ 連載 ◆

深浦の歴史 ⑨

深浦町文化財審議委員 森山嘉蔵

Ⅱ 今甦える中世戦国の深浦Ⅱ

8. 深浦の中世城館址

深浦町には幾つかの中世城館址が残されている。その内、割合に判然としているのは折曾乃関城・深浦大館(御飯屋)・吾妻館・元城の四城館址である。風合瀬・木・追良瀬・石動などにも館址があったと言われているが判然としていない。

① 折曾乃関城

城址は修道小学校の裏向いの丘陵地で、小童子川から旧大戸瀬中学校のグラウンド付近迄である。標高七十〇メートルで、その斜面に平場を造成して築城されている。全体的な規模は、東西は約千五百メートル、南北は約七百メートルと広大で、この中は大館・古館・東陣森・西陣森に四大区分されている。

大館は深沢と栢沢に挟まれた標高百メートルあり、東西は約五百メートル、南北約二百五十メートルで、後背部を約六メートルの高さ約一・五メートルの土壁で仕切り、東端から七段ほどの小テラスが造成されている。

古館は、大館東方の栢沢を挟んで北に延びる舌状地で三方は断崖になっている。丘陵基部を三重の空堀で切ったもので、館の規模は東西約二百五十メートル、南北二百五十メートルである。

陣森は、村の人々は「あまやけ」「あまやき」と呼んでいる。東と西に岐れていて、南北三百メートル、東西約六百メートルの不整形になっている。陣森には築山状の盛土やその下の池沼など三ヶ所ほどある。

この広大な城郭址には、土塁・空堀・縦堀・削平地が数多く残っている。断崖の大館・古館・東・西陣森は戦斗の為の詰の城郭址で、築山・池沼・庭園・削平地には治領の為の政庁が建てられていた邸址を伺う事が出来る。
 この城郭址は何時頃にとどのようにな武将が居城したかは判然としていない。
 「諏訪大明神絵詞」「鎌倉九代記」などの史料によれば、元亨の津軽乱と称されている藤崎安藤氏の内紛のときの、惣領の安藤季長派の本拠地である「折曾乃関城」と考えられている、この城郭では攻守の両軍が二回にわたって、季長軍と宗季・鎌倉幕府連合軍との攻防合戦が史考される。
 さらに、東陣森山麓の亀杉とその下四十二基の板碑(供養塔)からは、南北朝時代の宗季系十三湊安藤氏に関わる人々が居住していたことを伺い知るのである。この人達が西浜安藤氏の根城として、西浜一体の治領と海上の支配権を握っていたものと考えられる。
 ●熊窟城(安藤氏秘宝の隠し場所か?)
 安藤城郭には洞窟が秘かに築造されているとされ、金井城(折曾乃関城)には春日秘洞が噂となってきた。城郭域内には確かに洞窟は在った。場所によっては人が立って歩ける高さ、五十センチ程の高さ、また広場と呼ばれる四・五メートルに十二メートル以上の広い場所も三ヶ所もある巨大な横穴だが、縦穴も何ヶ所かあって大変危険である。入口から百二十五メートルまでは入ったが、その奥は不明である。尤も、これが春日秘洞であるのか、何に使用されたのかも不明である。